

平成 5 年 6 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

青梅市内のヘイケボタル

ホタルの仲間は日本中では 30 種類とも言われていますが、このうち一般に良く知られているのはゲンジボタルとヘイケボタルです。ゲンジボタルは、ピカー、ピカーと 2 秒に 1 回位の割合で明るくなったり暗くなったりしますが、ヘイケボタルは、発光の時間も間も短く、ピカピカとせわしく連続して光ります。ですから、ゲンジボタルとヘイケボタルは光り方で見分けががつかず、地域によってはヘイケボタルのことをヌカボタルと呼んでゲンジボタルと区別している場所もあるようです。

ゲンジボタルが流れのある清流にすむのに対し、ヘイケボタルは流れの無い水溜りや、流れのゆっくりした水田の用水路や水田にすんでいます。幼虫の食性もゲンジボタルより広くヒメモノアラガイ、サカマキガイ、カワニナなどを食べています。水の汚れや水温の上昇にもゲンジボタルより耐久性が強いため、一昔前まではゲンジボタルよりもはるかに普通のホタルでした。

ゲンジボタルが、光の強さ、生息地が限定されていることから昔から珍重され、全国で 10 の国指定の天然記念物の生息地があり、青梅市でも小曾木の「厚沢のゲンジボタル生息地」が市指定の天然記念物になっているのに対し、ヘイケボタルの方はどこにでもいるごく普通のホタルとして、どちらかといえば注目度の低い存在でした。ヘイケボタルは水田という人間の造り出した環境にすみつくことにより繁栄を図ってきた種で、水田があればどこにでも見られました。

ところが現在では、少なくとも東京都では、ゲンジボタル以上に生息の危機にさらされています。農薬の影響を真先に受けたのはヘイケボタルでした。次いで水田の減少により、ヘイケボタルの生息地は年々減り続けています。昨年、小曾木の厚沢にホタルの調査に出かけましたが、ゲンジボタルは一頃より数が減ったとはいえまだそれなりの数が発生していました。しかし、ヘイケボタルの方は、まだ水田耕作が続けられている周りだけでごくわずかな個体を観察できただけでした。水田が放棄されヨシの群生する湿地となった所には、もうヘイケボタルは見られませんでした。

市内でも、20 年前、10 年前にはあちらこちらにヘイケボタルの発生地があったはずですが、そのうち現在でもどれだけ残っているのか調査中です。ゲンジボタルが 6 月下旬～7 月上旬のわずかな期間しか見られないのに対し、ヘイケボタルは 6～8 月まで見られます。情報があつたらお寄せ下さい。

(文責 久保田繁男)